

Part 25 青海^{おうみ}から市振^{いちぶり}まで

2013年4月4日(木) 曇のち晴

五万図 糸魚川、小滝、泊

7時58分糸魚川発金沢行きで青海に向かう。青海駅南口に出て、集落の中の細い道を南行。天候は曇りだが、移動性高気圧に覆われてくるので荒天にはならない見込み。やがて車道に出て電気化学工業の大きな工場に沿って歩く。歩道があり助かる。デンカセメント青海親不知鉱山は親父がよく出張していたところだ。68歳になって親の仕事場を見る。大きな重工業の工場。川崎の浮島を思い出す。長野や山梨にはこんなに大きな工場はない。「海」の偉大さを実感する。やがて青海川を左岸に移る。川は昨日と変わって緑がかった乳白色で澄んでいる。いかにもヒスイの川といった感じだ。左手に石灰石の大きな切羽が見えてくる。親父はきっとこの切羽に何回も来たことだろう。やがて、さしもの大きな工場も終わり、静かな道となる。黒姫山分岐がある。右手、橋立^{はしだて}ヒスイ峡／大平峠^{おおひら}への道に入る。しばらく行くと3人で測量作業をしている人たちに会う。「どこまで行くのかね」「大平峠まで」「橋立までは除けてあるけど、その上は雪が70cmはあるよ。それに橋立から1kmくらい行ったところの橋が落ちているよ」「行けませんかねえ」「この時期だから雪は締まっているけど」「無理なら引き返してきます」「気をつけてね」

確かに橋立からいきなり雪となる。大平峠7km、行けるだろうか。ヒスイ峡も雪の中と推し、先の心配もあるのでヒスイはパスする。左に雪道に入り、1km行くと確かに橋が落ちている。左手に数メートル降りて沢を渡り、掛けてあったはしごを使って対岸の道に上がる。ここから延々と雪道を歩くことになる。もともと車道なので雪の登山道のように迷うということはないが、それでも分かりにくいところもある。カーブミラーの鏡だけが雪の上に出ており、良い道しるべとなる。上につれて雪は益々深くなり、ところどころデブリの跡がある。デブリの上は雪が締まってかえって歩きやすい。右手の崖からの落雪で道がすっかり埋まり斜面となって左手に落ちているところも多い。ステップを切って慎重に進む。幸い滑落の危険までは感じない。峠近くなると70cmどころではなく2mくらいはあるだろう。峠まではまだあるが12時になったので昼食とする。車が寄せられる小さな展望台があり、幸い雪がない。昨日ホテル横のスーパー「ハッピー」で買ったマーガリンあんぱんとバナナで昼食。雪に囲まれてはいるが、陽だまりにいと汗ばむほどだ。朝着ていたジャンパーも脱いでシャツの腕もまくった。ここで猿の一家と会う。春になって猿もうれしそうだ。

ここからさらに30分くらい歩いてやっと大平峠に着く。直進は上路^{あげろ}、右折すれば外波^{となみ}に下りる。直進する。しばらくは下りにならず、尻高山^{しりたかやま}を巻く道で雪も深く腿が少しつる。体操をしたりマッサージをしたりしてゆっくり進む。やがて少し下り道になり歩みも順調になる。ただ、今度は午後の陽に雪がゆるんできて少しもぐるようになる。このあたりで

子どものカモシカに会う。しばらく私の前を歩いてたが右手の沢に下りてゆく。カモシカの歩いたところは雪がしまっていて歩きやすい。さすが野生動物だ。だいぶ下ると雪のないところもあり、露の臺が出ている。おみやげに少し摘む。どんどん下りてやがて^{つがみ}梅海新道と出会う。昔々の計画では、塩の道を歩かず、白馬岳に上がって梅海新道を下りる予定だった。その梅海新道を横切ってさらに下りる。やがて^{しらとりやま}白鳥山分岐があり、その少し先から雪が除けてある。下からここまで除雪してあるようだ。まだ1m以上は積雪があり、除雪は助かる。結局10kmの雪道を歩いた。もう後は進むだけと安心し休憩とする。靴を脱いで靴下の水を絞る。こんなところには誰も来ないだろうと除雪した道に荷物を広げていると車が上がってくる。びっくりして荷物を脇に寄せる。糸魚川市の職員が積雪量を測りに来た。「上から下りてきたのですか」「大平峠から」「朝から歩いているのですか」「青海駅を8時に出たから6時間くらい」「熊に会わなかったですか」「熊には会わなかったけど、猿とカモシカがいたよ」彼らが車で下りた後もしばらく休む。かなり疲れた体を持ち上げて上路に向かう。舗装された雪解け水の流れる道だ。やがて田んぼが見え、上路の部落に入る。上路は「山姥の里」で能の山姥のモデルになった所の由だ。昔の旅人は、海辺を行けば波に飲まれ、山路を行けば山姥に食われ、大変な苦勞だったのだろう。上路からさらに上路川に沿って延々と境川に向かう。ガス管工事をしている。こんなところでなぜガス管が必要なのだろうか。ようやく境川に出て、上路橋で境川左岸に移る。左手に^{だいら}大平の部落が見える。越後を出て越中に入る。橋を渡って右折、北西行、海に向かう。さらに4kmほど下って、ようやく国道に出る。時間は16時40分。予定では左折して越中宮崎に向かうはずだったが、くたびれ果てたのと市振も歩きたいので右折する。境川を渡り返して再び糸魚川市に入る。国道8号をよけて^{たまのき}玉ノ木という部落の中を通る細道を歩く。よけたといっても家一軒はさんで国道をトラックが疾走している。やがてこの道もなくなり国道の歩道を歩く。17時、ようやく市振駅に着く。直江津行きは17時44分。しばしホームのベンチに座って海と夕日を眺める。山歩きの後はいつもそうだが、先ほどの雪道が夢の中のような気がする。山中はやはり非日常なのだろうか。ここで「姫川石」という薬石をひろっている人と会う。放射線が少し出ている、かなりの効能があるとのことだ。茶色い石を見せてくれる。明日、市振海岸にいるということで、再会できるかもしれない。姫川温泉に泊まっているというこの人と糸魚川駅で別れて、ルートインに戻る。GPSロガーとレコーダの電池がなくなったのでハッピーで電池を買う。ホテルに着くとすぐに風呂に入り、食堂に直行する。昨日は「ほたるいかの沖漬け」だったが、今日は「いか刺」で「ぬる爛」を一本つける。

距離：29.2km、上り：1155m、下り：1161m、標準時間：8時間26分

糸魚川駅(8:00)⇒青海駅(8:08)⇒黒姫山分岐(9:00)⇒橋立(9:40)⇒崩落した橋(9:50)⇒昼食場(11:45/12:10)⇒大平峠(12:40)⇒白鳥山分岐(14:20)⇒除雪道(14:25/14:40)⇒上路(15:25)⇒上

路橋(16:15)→境橋(16:40)→市振駅(17:00/17:4?)⇒糸魚川駅(18:02)